

長岡市・関係団体共同記者発表要旨

日 時：令和元年6月3日（月）午前11時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【発表項目：長岡米百俵フェス ～花火と食と音楽と～ 2019 共同記者発表】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

米百俵フェス有限責任事業組合 総合プロデューサー 北牧 裕幸

(株式会社キューブ代表取締役社長)

一般財団法人長岡花火財団 常務理事 広瀬 弘之

NPO法人 ネットワーク・フェニックス 代表理事 土田 勝也

一般社団法人長岡青年会議所 理事長 上村 英輔

(司会)

「長岡米百俵フェス～花火と食と音楽と～2019」は、昨年、長岡市と米百俵フェス有限責任事業組合が、次の100年へ「新しい米百俵」を掲げ、事業協定を締結し、未来を担う子どもたちの価値ある体験の提供や、ふるさと長岡への愛着の醸成への寄与、広く国内において発信し得る新たなイベントの実施により、長岡の認知度向上と新たなファンの獲得や、地域経済の活性化を目指し、開催します。

それでは、長岡市長・磯田達伸が、ご挨拶申し上げます。

(長岡市長)

昨年、長岡で野外音楽フェス、それも大規模なものをぜひやりたいという想いを長岡出身の株式会社キューブの北牧社長からお聞きして、音楽、花火、食の総合的なエンターテインメントをご提案いただきました。これはまさしく、開府400年の長岡にふさわしい、将来に引き継いでいくべき大きな試みになるだろうということで、さまざまな方々からご協力いただきながら、第1回を開催しました。

私も、野外の音楽フェスとは一体どういうものなのか、長岡でやるとしたら、どういうものが可能なのかということを考えながら2日間ずっと参加しました。

そこで私が思ったのは、これはやっぱりファミリーのための音楽フェスだなと。まず、子どもたちから子育て中の方々、そしておじいちゃん、おばあちゃんも含めたファミリーから来ていただいて、東山の気持ちがいい環境の中で音楽と食を、そしてそれが終わった後の花火を楽しんでいただく、素晴らしいイベントになるんだと。

長岡市のプロモーションとして、市外・県外の方、日本全国から多くの方に来ていただきたいという思いは関係者にも私にもありますが、まずは長岡市民、長岡市の近隣の皆さんのファミリーから楽しんでいただく。そういうイベントにしていければなと思った次第です。

スタンディングスペースで、あるいはちょっと後ろのファミリーの皆さんがいるスペースで音楽のシャワーを浴びていると、長岡で生活している、長岡でみんなと一緒に活動することの喜びを感じました。それがまた最後の花火で一層高まって、来年も来たいというリピーターの皆さんを期待できると思いました。

会見に先立ちまして、実行委員会を開きましたが、関係者から今年は去年を上回るイベントにしたという思いをお聞きしました。会場整備や交通の課題などありますが、長岡まつりに次ぐ大きなイベントとしてこの米百俵フェスが開催できればと思っています。

お集まりいただいた報道の皆さんにも協力を賜る場面もあるかと思いますが、長岡市のこれからの新しい一大イベントになるということで、ぜひご理解をいただきながら、育てていただきたいと思っています。

(司会)

続きまして、主催者であります米百俵フェス有限責任事業組合総合プロデューサー・北牧裕幸から、ご挨拶をさせていただきます。

(北牧総合プロデューサー)

今、磯田市長から大変力強い激励の言葉をいただきました。長岡まつりに次ぐ長岡の2大イベントに育て上げたいという言葉を受賞し、身が引き締まる思いです。

市長のお言葉にもありましたように、昨年、第1回目を手探りで始めました。台風の直撃の隙間を縫っての開催でしたが、お越しになった皆さまに大変喜んでいただきました。さらに、ご出演いただいたアーティストが、最後に涙を流して喜んでくださった。そして激励の言葉をいただきました。

アーティストの中には、「紅白歌合戦」の常連だったり、日本武道館、アリーナ、ドームで公演された、本当に著名なアーティストの方もいらっしゃいまして、過去に全国の多くのフェスに出てこられたわけですが、その方々が「こんなフェスは日本のどこにもない」と。ぜひ続けるべきだ、ぜひまた出させてほしいと、口々におっしゃってお帰りになりました。

これは、もちろん音楽の力もさることながら、花火、食、あるいは長岡の自然、それを育んできた長岡の文化・風土、おもてなしの心。そういった全てが一体となって「米百俵フェス」に結実したおかげで、アーティストの皆さまも感動されたのではないかと考えています。

それに力づけられ、第2回の企画を進めてきました。市長のお言葉にもありましたが、このフェスはファミリー、みんなで楽しめる「総合エンターテインメントのフェス」に育てていきたいと思っています。音楽だけではなく、花火、食、そしてキッズパーク、キャンプといろんな要素があって、ここに来たら家族みんなで一日中楽しめる、あるいは2日間キャンプをして楽しめると、そういうフェスを、首都圏から非常にアクセスのいい長岡の東山の地で定着させていきたいという思いです。

(司会)

引き続き、北牧プロデューサーから事業説明をお願いします。

(北牧総合プロデューサー)

日程ですが、今年は10月12日・13日です。開場が9時30分、開演が11時、終演は19時30分で、花火などを含めた全体の終演は20時ごろを予定しています。昨年より開演時間が早まりましたが、より多くの人たちに、長く、ゆっくりと楽しんでいただくために早めたものです。

会場は、昨年に引き続き、新潟県長岡市の東山ファミリーランドです。昨年は、市営スキー場を中心としたエリアでしたが、今年はファミリーランド全体を使った展開を考えています。

チケットは、1日券、2日券、ペアチケットなどがあります。昨年は第1回目ということで、採算度外視で値段設定をしましたが、安全・安心なフェスを継続して行うため、若干値上げをしました。ただ、これでも通常の野外フェスよりは安くなっています。今年も長岡市民割引先行チケットを用意します。先行して、1日券、2日券、ペアチケットは、本日10時から販売開始しています。市民割引のチケット等は、7月10日の販売開始を予定しています。

音楽に関しては、米フェスのキュレーターに本間昭光、島田昌典の2名が引き続き当たり、スペシャルナビゲーターとして、いきものがかりの山下穂尊がつき、ハウスバンドは昨年と同様のメンバーがサポートします。

出演アーティストですが、本日第1弾のアーティストを発表します。

まず、昨年に引き続き今年も出演していただくアーティストは、BIGMAMA、横山だいすけさん、DUB FORCE、wacciの4アーティストです。DUBFOURCEは、いとうせいこうが所属しているダブバンドですので、いとうせいこうが引き続きやってきます。司会は昨年同様、楠雄二朗が務めます。

そして、今年の新たなアーティストとして、まずはヒップホップ界のカリスマと言われるKICK THE CAN CREWです。次に、C&K、まだご存じない方が多いと思いますが、横浜アリーナでもワンマンライブをしました。全国区として大変な人気を誇っている2人組です。続いて、つるの剛士さん、彼は「ウルトラマンダイナ」のアスカ隊員役としてお子さん、そしてお母さんに大変な人気があります。歌もずっと歌っていてライブツアーなどを行っています。

地元出身のアーティストとして、長岡市内の高校に通学している琴音さんです。今年メジャーデビューをしまして、昨年に引き続き、米フェスのステージに立つことになりました。次に、ひなたです。ひなたも長岡市出身の2人組で、今年が結成20周年で、米フェスの後に長岡市立劇場でのワンマンライブを企画しています。そして、若い人から中高年の女性まで、大変な人気の長岡出身の中澤卓也さんです。

さらにスペシャルゲストとして、今年の中越大地震から15年、山古志でもいろいろと復興にご協力、ご尽力いただいた、越後長岡応援団でもある小林幸子さんにご出演いただくことが決定しました。

今後、第2段として、さらに10アーティスト程度の発表を予定しています。まだ詳細はお伝えできませんが、レジェンドと言われている方々から海外で活躍している方々まで、幅広い層のアーティストにご出演をお願いしていますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

会場ですが、音楽フェスのステージは、昨年同様、市営スキー場になります。長岡市にご尽力いただきまして、砂利だった部分が舗装されましたので、お子様連れでも安全・安心な観客席が設定できます。さらに、飲食ブースも昨年の倍近く増える予定です。キッズエリアも、長岡青年会議所の運営によって展開できる予定です。

今年はさらに、東山ファミリーランド奥の、いわゆる「コスモス広場」まで展開して開催します。

キャンプエリアですが、コスモス広場にオフィシャルキャンプサイトを100から120棟設営します。そのほか、三条市のアウトドアブランド・スノーピークと今後、オフィシャルサポーター契約を結び、プレミアムフェスグランピングを用意していただきます。なお、スノーピークとは相互に宣伝活動を行うほか、会員向けにチケットの販売などを行っていただく予定です。

駐車場ですが、会場内に駐車場を約400台確保しまして、さらに悠久山公園の近辺に400台の駐車場、長岡駅周辺にもコインパーキングなどが1,500台用意できます。

長岡駅東口発着のシャトルバスは昨年1,500円だったものを1,000円に、悠久山公園発着のシャトルバスを500円としました。2系統のシャトルバスのほか、さきほど申し上げた会場内の駐車場などを使ってのアクセスということを考えています。もちろんタクシーの乗り合いも可能です。

食に関しては、昨年以上の出店数を確保すべく、今ネットワーク・フェニックスが準備を進めている状況です。

長岡花火は、引き続き長岡花火財団が、本当にここでしか見られない花火を打ち上げる予定です。

キッズパークは、長岡青年会議所の運営管理によって、ピクニックエリア、アートクラフトエリア、プレイエリアの三つのコンセプトで幅広い展開を考えていただいています。

そして、昨年、阪之上小学校の児童たちに歌っていただいたテーマソング「輝き」ですが、今年は市内の小・中学校に歌唱校を公募しまして、新たに録音した「輝き」で米フェスのラストを締めくくる花火を打ち上げます。毎年このように公募しまして、児童や生徒たちの思い出になってくれたらいいなと思います。

なお、昨年の阪之上小学校が歌った「輝き」は、長岡花火財団のお力添えをいただきまして、今年の長岡まつり大花火大会のオープニングでこの曲に乗せて花火を打ち上げることが決定しています。

最後に、昨年も行いました「COME100オーディション」は、東京と新潟で開催します。ここでグランプリをとったアーティストは10月12日と13日のオープニングアクトとしてステージに立てるほか、場合によってはメジャーデビューのチャンスが広がります。「米百俵の精神」にのっかって、次の新しい才能が芽吹いてくれたらと思っています。

(司会)

続きまして、ご登壇の皆さまからそれぞれコメントをいただきます。

初めに、一般財団法人長岡花火財団常務理事、広瀬弘之様、お願いします。

(広瀬常務理事)

今年の米百俵フェスの花火は昨年同様、ステージ終了後に長岡花火を2日間打ち上げます。

プログラムは、これから主催者と協議をしますが、今年は中越大震災から15年ということで、8月2日、3日のテーマは「中越大震災からの感謝」として、そして「復興祈願花火フェニックス」の打ち上げが15回目の記念大会です。10月の米フェスの花火も、これを受けて考えていこうと思っています。

東山であれほどの規模の花火大会は昨年が初めてでしたが、安心・安全な花火大会として実行したいと思っています。

8月の川の花火、10月の山の花火。これが将来的に定着するよう、飛躍する花火大会にしたいと思っています。

(司会)

続いて、NPO法人ネットワーク・フェニックス代表理事、土田勝也様、お願いします。

(土田代表理事)

昨年に引き続き、長岡の食のブースを担当します。昨年出た反省点を一つ一つ確認しまして、市外・県外のお客さまに長岡ファンになっていただけるよう、また長岡の新しい秋のイベントとして定着するよう、頑張って設営したいと思います。

(司会)

続いて、一般社団法人長岡青年会議所、上村英輔様、お願いします。

(上村理事長)

昨年に引き続きまして、キッズパークを運営します。来ていただいた方に笑顔で帰っていただけるよう、その中でも子ども達の笑顔がはじけるような運営をしようと思います。

今年は、三つのコンセプトを持ち運営します。一つは「ピクニックエリア」として、親子でゆったりしながら、休みながらフェスを楽しんでいただけるエリア。二つ目は「アートクラフトエリア」として、ものづくりを体験していただけるエリア。最後の三つ目は、開放感のある広いフィールドなので、子ども達が体を使って遊べる「プレイエリア」です。今後、長岡市内の団体、企業を中心に協力者を募っていきます。

(司会)

それでは、質疑応答に入ります。質問される方は挙手をお願いいたします。

(記者)

昨年フェスの反省点と改善したポイントをお聞かせください。

(北牧総合プロデューサー)

昨年は第1回目でしたので非常に慎重に、地元の住民の方にもご迷惑をかけないようにという観点のもと、自家用車の乗り入れは全面禁止としました。しかし、昨年の状況を見ると、ある程度の台数までは可能だろうということで、今回は自家用車の乗り入れができる駐車券を販売します。

さらに、シャトルバスのチケット代も高いのではないかというお話がありましたので、長岡駅東口

から1,500円だったところを1,000円に、新たに設けた悠久山公園からのシャトルバスは500円としました。

(記者)

今年ならではの点があればお聞かせください。

(北牧総合プロデューサー)

まず大きく変わったところでは、キャンプの部分です。オフィシャルキャンプエリアは、道具を全て持ち込むサイト、テントと寝袋を用意しておくサイト、さらに全く手ぶらで来てもいいサイトの三つの区分で、120サイト用意します。

さらに、スノーピークからプレミアムフェスグランピングを初めて実施をしていただくと。

フェスとキャンプ、フェスとアウトドアのつながりということから考えて、大きく変わった点かと思えます。

(記者)

今年の動員はどのくらいを見込んでいらっしゃいますか。

(北牧総合プロデューサー)

天候等にもよりますが、最低でも去年の倍以上は考えています。2万人が一つの目標で、さらに3万人を目標として設定したいと思っています。

(記者)

去年はNGTのメンバーが出演していたと思うのですが、今年はいかがでしょうか。また、去年、米フェスを開催した際の長岡市への経済効果をお聞かせください。

(北牧総合プロデューサー)

僕と秋元康さんは35年来の友人ですが、総合的な見地で彼のプロデュースしているアーティストのご出演が何か考えられないか、相談している状況です。

(長岡市長)

経済効果は、まだ検証していないのですが、交流人口の増加は大事なテーマですので、しっかりと検証していきたいと思っています。

(記者)

経済効果はまだ検証されていないということですが、市全体に与えるフェスの波及効果は、どういったところにあるとお考えですか。

(長岡市長)

私は、一つの政策として、長岡の産業も含めた「イノベーション」が、長岡の地方創生の鍵になると思っていますが、それは特に技術革新とかそういう観点よりも、やはり市民の意識、若者の意識が変わって行って、新しいものにチャレンジしていくことがまさしくイノベーションだと思います。

子どもたちが音楽に触れ、長岡の自然に触れ、そしていろんな歴史、文化、そういったものにこの

フェスを通じて接してもらうことは、長岡に誇りを持つことにつながる。長岡の子ども達の未来を、フェスがバックアップしてくれるのではないかと考えています。

(記者)

今回出演するアーティストの総数をお聞かせください。また、ファミリーに多く来てほしいという中で、何か仕組みはあるのでしょうか。

(北牧総合プロデューサー)

アーティスト数は、20から21アーティストと考えています。7月中旬には第2弾としてすべてのアーティストを発表できたらいいなと思っています。

それから、ファミリー向けの施策としては、引き続き小学生以下は無料にしておりますので、小さいお子さん連れのファミリーの方でも少ない経済的負担でお越しいただけると考えています。

(記者)

花火プログラムは今後検討ということですが、昨年と比較して、規模感をお聞かせください。

(広瀬常務理事)

まずは昨年を下回らないことを前提として、それよりもさらに魅力のあるプログラムにしていきたいと思っています。台数的な規模感は、ほぼ同じと考えています。

(記者)

長岡市の関わり方について伺いますが、人的、物的、また金銭的な支援をされるのでしょうか。

(長岡市長)

このフェスを長岡の2大イベントに成長させたいという思いがありますので、安全・安心という観点からも会場周辺の整備をしたところですが、今後、東山全体の利活用ということをしっかり考えながら事業化していきたいというのがあります。特に下支えといいますか、環境整備をしっかりやりながら、特に安全・安心といった調整は、長岡市が責任を持ってやっていきたいと思っています。

(記者)

北牧総合プロデューサーのご出身は長岡ですが、やはり地元に対する恩返しなど、強い想いを持っていてこのフェスを開催されるのでしょうか。

(北牧総合プロデューサー)

東京に出てもう40年以上になりますが、地元長岡に対して誇りを持っています。それは長岡だけではなく、新潟県であったり、学んだ学校であったり、全てに愛着と誇りを持っています。

また、経営者の一人として、長岡の交通の至便さや、花火や食、歴史などの潜在的に持っているソフトの魅力を総合的に判断すると、この場所で新たな形のフェスをやれば、「日本で唯一のフェス」を作り上げることができるのではないかとこの思いから、長岡での開催を決意しました。